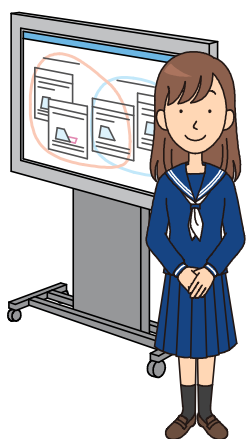


中学校学習指導要領解説 学習評価Q&A 総合的な学習の時間



教
一
如
女

教えることは学ぶことである
学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説学習評価Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価について、基本的な考え方や小・中学校の教科等別に評価規準の作成のポイントを先生方に分かりやすく解説するためQ & A形式でまとめています。

この学習評価Q & Aは、改訂された学習指導要領に基づき、どんなところが変わったのかをまとめています。

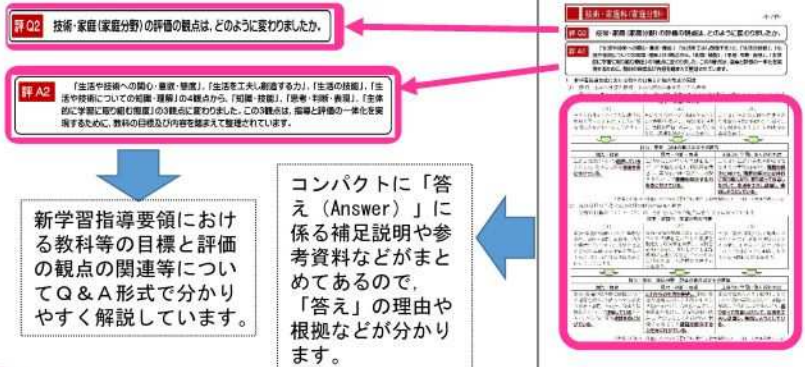


1 大事なポイントを解説

学習指導要領解説を踏まえ、国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」に基づいて作成しているので、各教科等の学習評価を行う上で大事なポイントが分かります。

2 Q&A

教科の目標や学年の目標に照らし合わせて評価規準の作成の手順等を図式化し、留意点などワンポイントアドバイスを取り入れるなど、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。



3 簡単アプローチ

「指導と評価の一体化」を図り、児童生徒の資質・能力の確実な育成に資するために、日々の授業改善や評価の改善に生かしてください。各教科ごとに必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

目 次

- 評Q1 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。…………… 1
- 評Q2 総合的な学習の時間の評価の観点は、どのように変わりましたか。… 4
- 評Q3 総合的な学習の時間の評価規準は、どのように作成すればよいですか。・ 6
- 評Q4 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。… 9

総合的な学習の時間(共通)

評 Q1 学習評価の基本的な考え方とはどのようなものですか。

評 A1 学習指導要領の目標及び内容が、資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科の評価の観点が、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の3観点到に整理され、それに伴い観点別学習状況の評価の考え方も変わりました。

教師が児童生徒の学習状況を的確に捉え、授業改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために「学習評価の在り方」が極めて重要です。

1 学習評価の意義

(1) 学習評価の充実

平成 29 年改訂小中学校学習指導要領総則においては、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習の過程や成果を評価する評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されました。

(2) カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

「学習評価」は「学習指導」とともに、学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っています。

(4) 学習評価の改善の基本的な方向性

(1)～(3)の学習評価の意義を踏まえ、学習指導要領改訂の趣旨を実現するためには、学習評価の在り方が極めて重要です。学習評価を真に意味のあるものとするために指導と評価の一体化を実現することがますます求められています。

【ポイント】

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと



「指導と評価の一体化」を図るためには、児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくというPDCAサイクルが大切です。

2 評価の観点の整理

育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえ、観点別学習状況の評価の観点については、小・中学校の各教科等を通じて「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到に整理されました。

[平成 20 年改訂]

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

[平成 29 年改訂]

知識・技能

思考・判断・表現

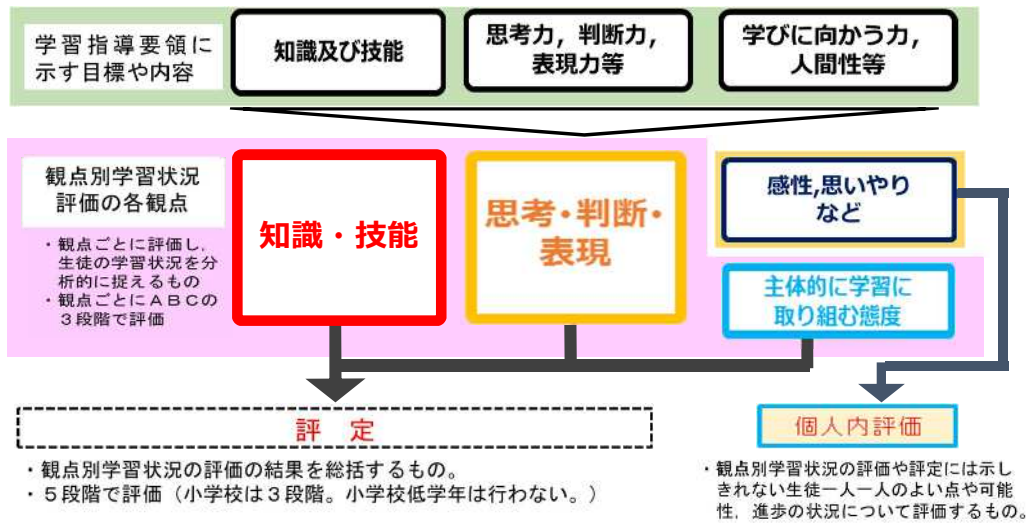
主体的に学習に取り組む態度

【参考】

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。(学校教育法第 30 条第 2 項)

3 各教科における評価の基本構造

2で示した評価の観点の整理も踏まえて各教科における評価の基本構造が以下のように示されています。



（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」p.8を基に作成，以下「学習評価参考資料」と記す。）

4 各教科における観点別学習状況の評価の考え方



上記の「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれについての考え方は次のとおりです。なお、この考え方は、外国語活動(小学校)、総合的な学習(探究)の時間、特別活動においても同様です。

「知識・技能」

各教科等の学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価します。それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。

「思考・判断・表現」

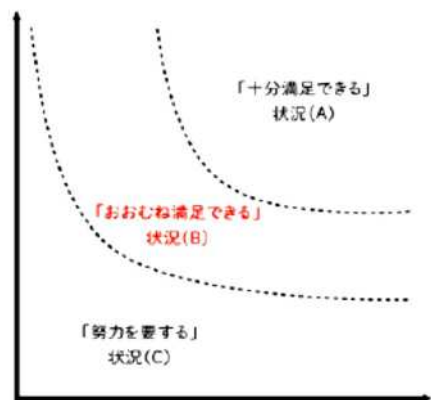
各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面」と、「②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」という二つの側面から評価することが求められます。

これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられます。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではありません。

②自らの学習を調整しようとする側面



①粘り強い取組を行おうとする側面

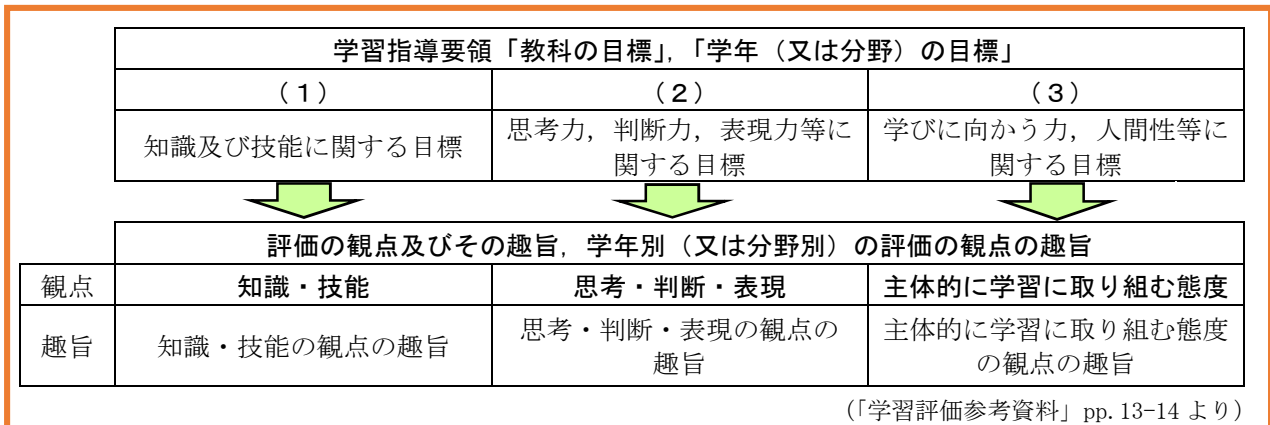
（「学習評価参考資料」p.10を基に作成）

5 各教科における評価規準の作成について

(1) 目標と観点の趣旨との対応関係について

評価規準の作成に当たっては、各学校の実態に応じて目標に準拠した評価を行うために、「評価の観点及びその趣旨」が各教科等の目標を踏まえて作成されていること、また同様に、「学年別（又は分野別）の評価の観点の趣旨」が学年（又は分野）の目標を踏まえて作成されていることを確認することが必要です。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、教科等及び学年（又は分野）の目標の（3）に対応するものですが、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分をその内容として整理し、示していることを確認することが必要です。（詳細は、評Q2参照）



指導と評価の計画を作成し、評価規準に基づいた「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の観点別評価を実施することで、児童生徒の姿が、教科の目標や学年の目標に近付いていくことになります。

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」とは



「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものです。基本的には、学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年（又は分野）の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されています。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となり得るものとなっています。（詳細は、評Q2参照）

(3) 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

各教科における、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順は以下のとおりです。

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

総合的な学習の時間

(中学校)

評 Q2 総合的な学習の時間の評価の観点とは、どのように変わりましたか。

評 A2 他教科等と同様に観点別学習状況の評価について、4観点から3観点到に整理されました。なお、総合的な学習の時間の評価の観点については、これまでと同様に学習指導要領等に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基づいて定めます。

1 新学習指導要領における各教科等の目標と評価の観点の関連

(1) 総合的な学習の時間の目標と総合的な学習の時間の評価の観点及びその趣旨

各教科等の目標の(1)～(3)と、それぞれ評価の観点及びその趣旨が合うようになっています。

総合的な学習の時間の目標		
(1)	(2)	(3)
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
↓ ↓ ↓		
総合的な学習の時間の記録 評価の観点及びその趣旨		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解 <u>している</u> 。	実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現 <u>している</u> 。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組 <u>もうと</u> しているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとして <u>いる</u> 。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より 下線、太字は筆者による)

(2) 各学校において定めた目標と評価の観点の趣旨の例

各学校で定めた目標の(1)～(3)が、それぞれ評価の観点に合うようになっています。

各学校において定めた総合的な学習の時間の目標 (A中学校の例)		
(1)	(2)	(3)
地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。	地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。
↓ ↓ ↓		
各学校において定めた総合的な学習の時間の評価の観点及びその趣旨 (例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けて <u>いる</u> とともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解 <u>している</u> 。	地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりする力を身に付けて <u>いる</u> とともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けて <u>いる</u> 。	地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組 <u>もうと</u> しているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとして <u>いる</u> 。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より 下線、太字は筆者による)

2 「内容のまとめり」と「内容のまとめりごとの評価規準」との関係

(1) 「内容のまとめり」や「内容のまとめりごとの評価規準」とは

総合的な学習の時間における「内容のまとめり」とは、全体計画に示した「目標を実現するにふさわしい探究課題」のうち、一つ一つの探究課題とその探究課題に応じて定めた具体的な資質・能力と考えることができます（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 p. 34 に記載例あり）。

ここでいう探究課題とは、指導計画の作成段階において各学校が内容として定めるものであり、具体的な資質・能力とは、探究課題の解決を通して育成を目指すもの（「中学校学習指導要領 Q&A 総合的な学習の時間」 pp. 3～4 参照）になります。

このような「内容のまとめり」を踏まえて、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成します。作成する際の【観点ごとのポイント】は以下のとおりです。

○ 「知識・技能」のポイント
「内容のまとめり」において記載事項の文末を、例えば「 <u>理解する</u> 」から「 <u>理解している</u> 」などとする ことにより、「内容のまとめり」に対応する評価規準を作成することが可能である。
○ 「思考・判断・表現」のポイント
「内容のまとめり」において記載事項の文末を、例えば「 <u>できる</u> 」から「 <u>している</u> 」などとする ことにより、「内容のまとめり」に対応する評価規準を作成することが可能である。
○ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント
「内容のまとめり」において記載事項の文末を、例えば「 <u>しようとする</u> 」から「 <u>しようとしている</u> 」など <u>とする</u> ことにより、「内容のまとめり」に対応する評価規準を作成することが可能である。

(2) 「内容のまとめりごとの評価規準」作成の例（A 中学校第 2 学年の例）

内容のまとめりごとの評価規準			
探究 課題	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の自然環境とそこに起きている環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境は人間の生活の変化とともに変わるものであること、持続可能な環境の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを<u>理解している。</u> 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施<u>している。</u> 持続可能な環境の実現に関する理解は、地域の自然環境とそこに関わる多様な人や組織との関係を探究的に学習してきたことの成果であることに気付い<u>ている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくり、見通しをもって計画を立ててい<u>る。</u> 課題の解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積<u>している。</u> 課題解決に向けて、多様な情報の特徴に応じて整理し、考<u>えている。</u> 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ、表現し<u>ている。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気付き、探究活動に進んで取り組もうと<u>している。</u> 自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうと<u>している。</u> 地域との関わりの中で自己の生き方を考え、自分にできることを見付けようと<u>している。</u>

（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より 下線、太字は筆者による）

総合的な学習の時間

(中学校)

評 Q3 総合的な学習の時間の評価規準は、どのように作成すればよいですか。

評 A3 まず、「内容のまとめり」をもとに、単元全体を見通して、「単元の目標」を作成します。さらに、「内容のまとめりごとの評価規準(評Q2)」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、「単元の評価規準」を作成します。

1 授業で評価する評価規準を作成するまでの流れ

- 1 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。(評Q2)
- 2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。(評Q2)
- 3 単元の評価規準を作成する。
 - (1) 単元を検討する。
 - (2) 単元の目標を作成する。
 - (3) 単元の評価規準を作成する。

2 単元の評価規準を作成するに当たって

(1) 単元の見直し

- ・ 総合的な学習の時間における「内容のまとめり」は、目標を実現するにふさわしい探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力の二つによって構成されます。(評A2)
- ・ 目標の実現に向けて生徒が「何について学ぶか」を表したものが探究課題であり、「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力です。
- ・ 「内容のまとめり」を踏まえて、教師が意図やねらいをもって作成するのが単元の計画です。
- ・ 単元は、課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとめりとして構成されます。

(2) 単元の目標の作成

- ・ 「内容のまとめり」をもとに単元全体を見通して、総括的に目標を示すとともに、以下の四つの要素を構造的に配列し、単元の目標を作成します。なお、イ～エは、アとの関わりにおいて作成します。
 - ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習活動
 - イ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
 - ウ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「思考力、判断力、表現力等」
 - エ 育成を目指す具体的な資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

〔単元の目標〕の例

ア〇〇市における自然環境に関する調査活動を通して、イ自然環境は人々の生活や地域の特徴と深く関わっていることを理解し、ウ持続可能な視点から多面的に自然環境の在り方について考えるとともに、エ自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

(3) 単元の評価規準を作成（A中学校第2学年の例）

- ・ 「内容のまとまりごとの評価規準（評A2）」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成します。

単元名	単元の評価規準		
	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〇〇市の自然環境を未来の世代につなごう	<p>① 持続可能な自然環境の実現には、そこに存在する多様な問題の解決に向けて人や組織と目的を共有して取り組むことが必要であることを理解している。</p> <p>② まちの環境がどのように変遷してきたかを捉えるための調査を、対象に応じた適切な方法で実施している。</p> <p>③ 〇〇市の自然環境に関する問題状況と自分たちの生活との関わりについての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>	<p>① まちの変遷と調査活動とを結び付けることを通して、〇〇市の環境における問題を明らかにし、解決への見通しをもって計画している。</p> <p>② まちの環境に関する現状を捉えるために必要な情報について、多様な方法の中から効果的な手段を選択している。</p> <p>③ 収集した情報を比較・分類することで、「効果がすぐ表れる取組」、「多くの人を巻き込むことができる取組」につながるものとして整理しながら解決に向けて考えている。</p> <p>④ 持続可能な自然環境の実現に向け、調査結果をグラフや地図、写真を使って効果的に表し、「環境フォーラム」で訴えている。</p>	<p>① 調査活動の振り返りを通して自ら設定した課題の価値に気付き、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 自然環境への市民の関心を高めるための実効性のある取組の実施に向け、自他の考えを生かしながら、協働して取り組もうとしている。</p> <p>③ 持続可能な自然環境を次世代につなぐために、自分の生活を見直し、地域と協働しながら自分ができることに取り組もうとしている。</p>

（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より）

3 育成を目指す資質・能力を踏まえた「単元の評価規準」の作成のポイント

（以下の丸数字は、上記単元の評価規準の観点別に示された丸数字と合致します。）

<p>(1) 知識・技能</p> <p>① 知識については、事実に関する知識を関連付けて構造化し、統合された概念として形成されることが期待されている。</p> <p>② 技能については、手順に関する知識を関連付けて構造化し、特定の場面や状況だけでなく日常の様々な場面や状況で活用可能な技能として身に付けることが期待されている。</p> <p>③ 総合的な学習の時間においては、探究的な学習のよさの理解として、資質・能力の変容を自覚すること、学習対象に対する認識が高まること、学習が生活とつながることなどを、探究的に学習してきたことと結び付けて理解することが期待されている。</p>

(2) 思考・判断・表現

- ① 「課題の設定」については、実社会や実生活に広がっている複雑な問題に向き合っ、自らの力で解決の方向を明らかにし、見通しをもって計画的に取り組むことができるようになることが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 複雑な問題状況の中から課題を発見し設定する。
- ・ 解決の方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てる。

- ② 「情報の収集」については、情報収集の手段を意図的・計画的に用いたり、解決の過程や結果を見通したりして、多様で効率的な情報収集が行われるようになることが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 情報を効率的に収集する手段を選択する。
- ・ 必要な情報を多様な方法で収集し、種類に合わせて蓄積する。

- ③ 「整理・分析」については、収集した情報を取捨選択すること、情報の傾向を見付けること、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだすことなどが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにする。
- ・ 事象を比較したり関連付けたりして、確かな理由や根拠をもつ。

- ④ 「まとめ・表現」については、整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること、振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されている。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ・ 相手や目的に応じて効果的な表現をする。
- ・ 学習を振り返り、自己の成長を自覚し、学習や生活に生かす。

※ ①～④の探究のプロセスについての詳細は、「中学校学習指導要領Q&A総合的な学習の時間」p.2に図「総合的な学習の時間における生徒の学習の姿」として記載している。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「粘り強さ」や「学習の調整」を重視することとしている。これらは、自他を尊重する「①自己理解・他者理解」、自ら取り組んだり力を合わせたりする「②主体性・協働性」、未来に向かって継続的に社会に関わろうとする「③将来展望・社会参画」などについて育成される資質・能力を生徒の姿として示して、評価規準を作成することが考えられる。

評価規準の設定に当たっては、例えば以下のような視点で設定することが考えられる。

- ① 「自己理解・他者理解」については、自分の生活を見直し、自分の特徴やよさを理解しようとしたり、異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重しようとしたりする視点
- ② 「主体性・協働性」については、自分の意思で目標に向かって課題の解決に取り組んだり、自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に取り組んだりする視点
- ③ 「将来展望・社会参画」については、自己の生き方を考え、夢や希望をもち続けたり、実社会や実生活の問題の解決に、自分のこととして取り組んだりする視点

(4) その他

「単元の評価規準」を作成するに当たっては、実際の学習活動や学習場面をイメージし、資質・能力を発揮する生徒の姿を想定することが大切である。その際、実際に行う学習活動や扱う学習対象と、発揮される資質・能力とを具体的に描くが必要になる。

総合的な学習の時間

(中学校)

評Q4 評価をする際、具体的にどのようなことに気を付ければよいですか。

評A4 学習評価については、これまで様々な課題が指摘されてきました。その改善のために、指導と評価の計画を作成し、観点別学習状況評価を計画的に進める必要があります。

1 学習評価の進め方について

(1) 学習評価について指摘されてきた課題

学習評価については、以下のような課題が指摘されてきました。



- ・ 評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- ・ 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるとの誤解がある。
- ・ 評価の方針が教師によって異なり、学習改善につなげにくい。
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。

教師は、上記のような課題に応えるためにも、生徒への学習状況のフィードバックや授業改善に生かすという評価の機能を一層充実させる必要があります。そのためにも、学習評価の進め方に留意し、評価の充実を図ることが必要です。

(2) 評価の進め方及び留意点

単元における観点別学習状況の評価の進め方及び留意点は、以下のとおりです。

ア 単元の目標を作成する。 →評Q3に関連

- 学校において定める総合的な学習の時間の内容をよりどころとして、中核となる学習活動を基に、どのような学習を通して、どのような資質・能力を育成することを目指すのかを明確にして単元の目標を作成する。
- 単元の目標を踏まえ、具体的な学習活動を視野に入れ、「単元の評価規準」を作成する。

イ 単元の評価規準を作成する。 →評Q3に関連

※ 単元の目標及び評価規準の関係性については評Q2参照。

ウ 「指導と評価の計画」を作成する。

- ア、イを踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料を基に評価するかを考え、その結果を基に指導する具体的な手立てを明らかにする。

エ 授業を行い、評価を行う。

- 「指導と評価の計画」を踏まえて評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

オ 総括する。

- 活動や学習の過程、作品や成果物、発表や討論などに見られる学習の状況や成果などについて、生徒のよい点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況を踏まえて、評価結果を総括する。

2 「指導と評価の計画」の作成例

これまでの指導計画に、観点別学習状況評価を位置付けた「指導と評価の計画」を作成することで、単元を見通した計画的な指導と評価を行うことができ、その充実にもつなげることができます。

作成例

○ 単元名 未来の人も豊かな暮らしをするために～エネルギー問題について考え、自然環境との共生を目指す～ (第2学年)

○ 内容のまとめ
「資源エネルギー」(全50時間)
※ 課題の解決や探究的な学習活動が発展的に繰り返される一連の学習活動のまとめとして構成する。

○ 単元の見直し
様々な発電方法を調査したり電力消費量を減らすための活動に取り組んだりすることを通して、自分たちの暮らしは環境に負荷を与えたり、限りある資源の消費の上で成り立っていることを理解するとともに、電力消費量を抑えるための実現可能な方法を探し求め、未来の豊かな暮らしを守るために行動できるようにする。

○ 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① エネルギーの問題について、資源には限りがあることや発電方法のバランスが重要であること、生活や暮らしとのつながりが大切であることなどを理解している。 ② 地域への節電の呼びかけを相手や場面に応じた適切さで実施している。 ③ エネルギー問題と自分の生活との関係について探究し続けてきたことによって、自らの行為が未来社会に深く関わっていることに気付いている。	① 電気エネルギーを生み出すための発電について、何をどのように調べるか見直しをもって活動計画書を作成している。 ② 多様な発電方法について、その仕組みや特徴に関する情報を、幅広く効率的に収集している。 ③ 自分でできる節電方法について、それぞれのメリット・デメリットを明らかにした上で、取り組むことの優先順位を決めている。 ④ エネルギー問題の解決方法について、結論に対する根拠を明らかにして、自分の考えを主張している。	① エネルギーに関する問題について、調べたことの中から伝えたいことを明確にして、新聞を作成しようとしている。 ② 太陽光発電が増えることの是非について、異なる意見のよさや他者の考えの価値を受け入れ参考にしようとしている。 ③ アンケートの結果から、これからの社会を視野に入れ、節電の取組を地域に継続的に働き掛けようとしている。

○ 指導と評価の計画 (50時間)

小單元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
小單元1 (15)	豊かな暮らしの背景にあるエネルギー問題について考えよう。 ・ エネルギーに関する問題を出し合い、解決に向けた今後の活動への見直しをもつ。 ・ 電気に焦点を絞り、様々な発電方法の仕組みや特徴について調べる。 ・ 社会見学を通して、化石エネルギーや再生可能エネルギーを利用した発電の意義について考え、学んだことを新聞にまとめる。		①		・ 発言 ・ 計画書 ・ ワークシート ・ 新聞
小單元2 (25)	エネルギー問題の解決に向けて、自分たちができる取組について考えよう。 ・ 太陽光発電施設の見学や、太陽光発電の設置業者にインタビューを行い、太陽光発電のメリット・デメリットを議論する。 ・ 太陽光発電や再生可能エネルギーについて、身近な地域や実際の現場での調査を行い、情報を収集する。 ・ エネルギーの自給自足に取り組む人の話を聞き、自分たちができる効果的な節電方法について考える。(私の節電ベスト3) ・ 節電に対する意識を地域に広げ、多くの人に節電に取り組んでもらうために、地域が一斉に消灯する活動を企画し実行する。 ・ 活動に対する地域アンケートを行い、集計結果をもとに、活動の有効性を見つめ直す。		②	③	・ 振り返りカード ・ 「私の節電ベスト3」シート ・ 節電企画シート ・ 活動報告書
小單元3 (10)	取組を振り返り、エネルギー問題について自己の考えをまとめ、今後の関わり方について考えよう。 ・ 海外の電力事情 (フランス・ドイツなど) を比べ、発電方法や電力生産の方向性について、自分の考えを主張文 (結論と理由) としてまとめる。 ・ 作成した主張文を使って、「これからの社会における発電や電力生産」についてのパネルディスカッションを行う。 ・ 単元を通して学んだ記録 (振り返りカード、私の節電ベスト3、主張文など) を振り返り、自己の成長や学習したことを基にして、「10年後の私」宛に手紙を書く。	④	①	③	・ 主張文 ・ 発言 ・ 主張文への追記 ・ 手紙

この例では、三つの小單元で構成し、内容や時間のまとめごとに、観点別の学習状況についての評価をしている。

小単元の学習活動や学習場面において、単元の評価規準を基に、資質能力を発揮する生徒の姿を想定する。

評価するための、主たる評価資料を計画する。

(『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料) より 四角囲みと矢印は筆者による)

3 学習評価の総括

総合的な学習の時間の記録については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する際、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述します。その際、評価規準にかかわらず教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することも大切なことです。

4 学習評価の工夫について（チェックポイント例）

(1) 学習評価の妥当性、信頼性を高める工夫について

- 評価について、学校として組織的かつ計画的に取り組んでいる。
- 評価規準や評価方法について、教師同士で検討するなどして明確にしている。
- 評価に関する実践事例を蓄積した上で共有し、評価結果についての検討を通じて力量向上を図っている。
- 児童生徒や保護者に対し、評価に関する仕組みについて事前に説明したり、評価結果について丁寧に説明したりするなど、評価に関する情報を積極的に提供し、児童生徒や保護者の理解を図っている。

(2) 評価時期の工夫について

- 日々の授業で、児童生徒の学習状況を把握して指導に生かすことに重点を置いている。
- 各教科における「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価の記録については、原則として単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価している。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとしているか意思的な側面を評価している。
- 学習指導要領に定められた各教科等の目標や内容の特質に照らして、複数の単元や題材などにわたって長期的な視点で評価している。

(3) 学年や学校間の円滑な接続を図る工夫の例

- 「キャリア・パスポート」を活用し、児童生徒の学びをつなげられるようにしている。
- 小学校段階においては、幼児期の教育との接続を意識した「スタート・カリキュラム」を一層充実させている。
- 高等学校段階においては、入学者選抜の方針や選抜方法の組合せ、調査書の利用方法、学力検査の内容等について見直しを図っている。



自校の学習評価の工夫について、チェックポイントを活用して振り返ってみましょう。

指導と評価の一体化に向けて（指導と評価の計画）

「指導と評価の一体化」の必要性は、今回の学習指導要領において、より一層明確なものになりました。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」では、各教科等別に単元や題材に基づく学習評価について事例を紹介しています。各学校においては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や各教育委員会等が示す学習評価に関する資料などを参考としながら、学習評価を含むカリキュラム・マネジメントを円滑に進めていただくことで、「指導と評価の一体化」を実現し、子供たちに未来の創り手となるために必要な資質・能力が育まれることを期待します。

【事例】

学習評価に関する事例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
第3編 第2章 学習評価に関する事例について

【国立教育政策研究所教育課程研究センター】

